

開々六瓣淡黄色、花謝テ小莢ヲ結ブ、中ニ細子アリ、又花ニ粉紫淡紅淺綠茶褐ノ數品アリ、

〔武江產物志〕藥草目黒邊ノ產 白花狸々袴上北澤

〔採藥使記上奥州〕照任曰、奥州南部遠野ト云フ所ニ、高苜葉ノ藜苳ヲ產ス、其花葛ノ花ノ如ク紫色ナ

リ、即チ官園ニ納ム、

光生按ズルニ、高苜葉ノ藜苳ト云フハ、狸々袴ト云フ草ノ一種ナリ、根ノ形チ左右ヘ子ジレタ

ル物ナリ、張璐ガ醫通ニ曰、左ニ子ジレタルヲ藜トシテ溼病ヲ治シ、右ニ子ジレタルヲ苳トシ

テ、是ヲ用エル時ハ脚氣ヲ發ス、慎テ用エルコトナカレト云ヘリ、

狐ノ尾

〔草木育種後編下關類并冒稱ノ類〕老虎蕉實問本艸 俗に花の形を以て狐の尾ともいふ、播州野州日光

山等にあり、狸々袴の類にて、葉地に場て中心より莖を抽きて花あり、赤土に栽て根に胡麻油か

すを少しツ、入てよし、喜任按に、質問本艸の原圖にて考るに、世間に狸々袴の清俗名とするは

誤なり、

藜蘆

〔本草和名十〕藜蘆楊玄操音上力號反 一名葱苳仁謂音冉 一名葱葵仁謂他敢反 一名山葱、一名葱葵、一名蕙葵、二名公舟

一名山惠、一名繩已上五名出釋藥性 一名豐蘆出雜要決 和名也、末宇波良、一名之々乃久比乃岐、

〔倭名類聚抄二十〕藜蘆 本草云、藜蘆上音黎、和名夜末宇波良、一云之之乃久比乃木、

〔箋注倭名類聚抄十〕陶云、根下極似葱而多毛、蜀本圖經云、葉似鬱金、秦苳、藜荷等、根若龍膽、夏生

冬凋、圖經、三月生、苗葉青、似初出櫻心、又似車前、莖似葱白、青紫色、高五六寸、上有黑皮、裏莖似櫻皮、

其花肉紅色、根似馬腸根、長四五寸許、黃白色、此有二種、一種水藜蘆、莖葉大同、只是生在近水溪澗、

石上、根鬚百餘莖、不入藥、今用者名葱白藜蘆、根鬚甚少、只是三二十莖、生高山者爲佳、

〔重修本草綱目啓蒙十三〕藜蘆 シ。ニ。ロ。サ。ウ。 日。光。ラ。ン。 一名山櫻藥性要略 藜蘆本草 藜蘆藥性要略 藜蘆本草 藜蘆藥性要略

草本 朴鳥伊採取 藜蘆三才圖繪